

「足利尊氏、決起する ～室町幕府の誕生へ～」

足利尊氏という武将ほど、天皇家との関わりにおいて、様々に論じられてきた人物はいない。後醍醐天皇に反旗を翻した逆賊として、右翼勢力から「謀反人」扱いされたこともしばしばである。

だが、その生涯を見つめてみると、類稀なる時代認識の才に恵まれ、歴史の大舞台でその役割を演じきった武将であった。

日本の中世史の分岐点となる 14 世紀前半（1333 年）、鎌倉幕府北条家の御家人であった足利尊氏は、後醍醐天皇に呼応し、楠木正成らの畿内武士団とともに決起し、140 年間続いた北条政権を打倒した。

だが、天皇の離反、楠木成氏や新田義貞との抗争など、征夷大將軍となったものの、尊氏の生涯は波乱万丈のまま終えた。

ようやく、その心ざしが実を結んだのは、孫の義満が南北朝時代を収束させ、京の室町に造営した室町殿で幕府を開いたころであった。

下野の国（栃木県）、足利庄を根拠地として勢力を拡大した地方御家人である尊氏が何故決起し、どのようにして政権の座につき、足利幕府誕生の基盤を築いたか、その姿を見つめてみたい。

（講演要旨）

○ 昭和 9 年 2 月 3 日の帝国議会貴族院。

中島久万吉商工大臣、尊氏の業績を評価する論文を執筆発表。

衆議院や貴族院議員たちから、激しい抗議を受けて、2 月 9 日に大臣を辞職。

『尊氏逆臣論』の風潮に合わせた右翼議員の攻撃であった。

後醍醐天皇に反旗を翻した逆臣としての尊氏評価が定着し、軍事国家への道を歩む日本の針路を予兆させる事件。

○足利氏とは

下野国（栃木県）の足利荘（現足利市）を本拠とし、源頼朝の先祖と姻戚関係を持つ名門御家人。

先祖は、源義家。

三河、上総の両国の守護職、さらに全国各地に所領を持つ。

頼朝の死後、執権となった北条氏にとって、足利一門は危険視される存在。

○ 足利尊氏（若い頃は高氏）

一族の総領貞氏の子として、嘉元3年（1305）に誕生。

後に、共に北条政権打倒の軍を起こす、弟の直義は2年後の1306年に誕生。

歴史的に登場するのは、

元徳3年（1331）、

後醍醐天皇の最初の叛乱の際、笠置城を幕府の総大将として攻撃。

だが、尊氏の北条氏への怨恨を抱いていた。

父貞氏の死直後の出陣命令が根底にあったとされている。

笠置城での後醍醐天皇と赤坂城での楠木正成の敗戦。

後醍醐天皇は隠岐に流罪となり、正成は以後、各地で反北条氏のゲリラ戦を展開。

○ 後醍醐天皇の再度の決起

元弘3年（1333）閏2月、後醍醐天皇は隠岐を脱出。

尊氏は3000人に兵とともに、天皇討伐に出陣。

だが、後醍醐天皇に呼応、六波羅探題を攻撃。

一方、新田義貞が鎌倉を攻撃。北条高時、以下北条「門の自害」。

鎌倉幕府の滅亡（1333年5月）。

○ 建武政権（後醍醐天皇）での尊氏

全国から集まる武士団の掌握。

尊氏の名を天皇から与えられる。奉行所を設置。

- 北条高時の遺児、時行の抵抗。
建武2年(1335)7月。
北条時行が挙兵。
尊氏、東行。叛乱を鎮圧。
武家の棟梁としての自覚し、
恩賞を部下に与えようとする。
天皇の不信感と上洛命令。
尊氏と弟直義の拒否。

- 新田義貞との対立抗争
後醍醐天皇の命を受けて、新田義貞が反尊氏の軍を起こして、
鎌倉に向かう。
だが、箱根での合戦で、尊氏軍の勝利。

- 尊氏、直義軍と新田義貞、楠正成軍との抗争
建武3年(1336)1月、反尊氏の北畠顕家軍が入京。
尊氏、さらに楠木正成と新田義貞の適合軍との戦いで敗北。
九州に逃れ、再起を図る。
 - 4月、尊氏、博多を出発、京を目指す。
 - 5月、湊川の戦いで楠木正成軍に勝利。正成戦死。
 - 8月、尊氏、光明天皇を即位させる。南北朝時代の開始。11月、建武式目制定、室町幕府成立。
12月、後醍醐天皇、吉野へ。(南北朝分裂)
 - 天皇の死(暦応2年8月)
 - 後村上天皇が南朝方として即位

- 尊氏、征夷大將軍となる
暦応元年(1338)閏7月、新田義貞、越前藤島で戦死。
8月、尊氏、光明天皇より征夷大將軍に任じられる。

- 弟、直義との抗争
観応2年(1351)2月、弟、直義との不和。
直義軍との戦いに敗走。

その後、和睦。翌年に鎌倉で、直義を殺害。

○ 尊氏の死去

延文 3 年 (1358)

4 月、尊氏死去 (享年 54 歳)

京、等持院に埋葬。

同年、12 月、その子、義詮、征夷大將軍となる。(2 代將軍)

○ 貞治 6 年 (1367)

詮、息子の 10 歳の義満に譲位。

細川頼之を管領として補佐役とする。

12 月、義詮が 38 歳で死去。

○ 南朝方の帰順。

南朝方の武将たちの京への帰還。

明德 3 年 (1392) 閏 10 月、

南朝の後龜山天皇の京都、帰還。嵯峨大徳寺に入る。

3 種の神器、北朝の後小松天皇に返還し、南北朝の合一。

○ 義満 (1358-1407)

この時、34 歳。

南北朝時代は 50 年余で終焉を迎えた。

応永元年 (1394)、義満、將軍職を子の義持に譲る。

その年、12 月、太政大臣となる。

以後、京の北山殿 (金閣寺) に移り、院政をしく。

以後、足利氏による室町幕府は、15 代義昭が織田信長によって京から追放される 1573 年まで続いた。

(以上)

一紅全歴史研究同好会渡辺房男先生を囲んで・・・第19回参加者名簿(敬称略)

「足利尊氏、準起す ～室町幕府の誕生～」

催行目 平成27(2015)年11月8日(日)13時30分～

会 場 ベルモントホテル

会 費1,000円 「甲州金まんじゅう」試食 アンケート実施協力依頼

NO	卒業年次	お 名 前	NO	卒業年次	お 名 前
1	S30	荒谷良雄	31	S38	市橋 金之助
2		神田 四郎	32		長沼 真
3		藤谷 堯	33		矢崎 茂夫
4		遠藤 政子	34		梅澤 梅子
5		呉藤 勢津子	35		新海 行子
6		近藤 文子	36		鈴木 紀子
7		塩瀬 昭子	37	S39	斉藤 美都子
8		轟 佐知子	38	S40	飯野 文書
9		神田 信子	39		原 護
10		小坂 敏子	40		雨宮 喬子
11		佐野 和子	41		宇野 由美子
12		野田 純子	42		山縣 萩江
13		清水 容子	43	S41	山本 秀彦
14		折口ご主人	44	S44	杉本 恭子
15		折口 有里子	45		峯川 文江
16	S32	若尾 和子	46	S46	山下 憲子
17		五味 一彦	47	S47	佐藤 みどり
18		樋川 紘一	48	S52	佐藤 守
19		飯田 富美子	49		伊藤 由佳美
20		斉藤 由美子	50		塚田 薫
21	S35	小笠原 紘子	51		吉川 文代
22		作道 恒	52	S53	朝戸 直美
23	S36	田村久夫	53	S56	神谷 ひとみ
24		塚越 洋	54		鷹野 由香
25		雪江 武雄	55	S32	田中 博久
26		谷口 百合子	56	S30	井上 若子
27	S37	黒田 順子	57		
28		小松 寿恵	58		
29	S38	雨宮 武士	59		
30		一瀬 明	60		